■藤原保則 官人。仏心の篤く、地方で善政・治績、出羽俘囚の乱收拾など、理想的な官人と謳われた。

ふじわらのやすのり

桓武平氏始・825＝ 生。南家貞雄の子。祖父は乙叡。母は安倍弟富(嘗)の女。藤原武智麻呂5代の孫。

・・・・・・ 834＝9歳：

承和の変・・・ 842＝17歳：

・・・・・・ 843＝18歳：

・・・・・・ 852＝27歳：

・・・・・・ 855＝30歳：治部少丞となり、

民部・兵部・式部の丞を歴任。昇進は早くはないが能吏としての官歴にはふさわしいといえよう。

人民摂政の実 858＝33歳：

・・・・・・ 860＝35歳：大丞正六位上で判官。

・・・・・・ 861＝36歳：

応天門の変・ 866＝41歳：*従五位下。備中権介となり、

・・・・・・ 870＝45歳：

貞観式成立・ 871＝46歳：備前介、

・・・・・・ 874＝49歳：*備前権守となる。三善清行著「藤原保則伝」によると、この両国において同じように徳化仁政を行ない、ある時、備後国で調絹を盗んだ者が備前国で保則の治化の様子を聞いて感服し、保則の前に自首して出たという。また、備前国司を離任する際には、里老村娼が名残りを惜しんで押しかけて際限がないので、小舟でこっそり脱出したともいう。

・・・・・・ 876＝51歳：右衛門権佐、

・・・・・・ 877＝52歳：右中弁となり、

出羽元慶の乱 878＝53歳：出羽権守を兼ねた。この年、出羽国秋田城下の俘囚が蜂起し、秋田城や郡の施設、周辺の民家などを焼き払う大規模な反乱が起きた。原因は、自然災害と国司の苛政にあったらしい。この反乱を出羽国府は鎮定できず、藤原基経は、保則を権守に、小野春風を鎮守府将軍に任命して解決を計った。保則は着任すると、まず上野の兵6百余を秋田川(雄物川)の南に屯して敵を防ぐとともに、秋田川以南の3カ村の俘囚村に対する懐柔策をとり、これが功を奏して状況は好転し、秋田川以北の12カ村でも投降者が急速に増加した。

元慶官田・・・ 879＝54歳：保則は政府に休戦を申請し、俘囚側の言い分を容れる形での一種の妥協によって反乱は鎮静化した。

・・・・・・ 882＝57歳：讃岐守となって赴任すると、

讃岐国の人々は法律をよく学び、訴訟好きであったというが、保則の前では譲りあって平和になったという。後任の菅原道真も保則の治績を賞讃している。

宇多天皇即位 887＝62歳：就任した大宰大弐としても多くの治績をあげている。

関白始・・・ 888＝63歳：

道真蔵人頭・ 891＝66歳：藤原基経の死去後、保則の人物と力量を高く評価していた宇多天皇は、保則を左大弁に起用した。

・・・・・・ 892＝67歳：*参議となり、直接朝政に参画、

・・・・・・ 893＝68歳：民部卿を兼ね、

地方行政関係の現実的な施策を出すなど、菅原道真とともに寛平の治を推進する中心的存在となったが、

・・・・・・ 895＝70歳：没した。時に従四位上。